

令和 6 年度本科 1 学期 終業式式辞（令和 6 年 7 月 19 日）

みなさんこんにちは。

令和6年度1学期の本科終業式をみなさんと迎えられたことを大変嬉しく思います。最近も兵庫県下で高校生の自転車による死亡事故が有った中で終業式に臨む生徒・先生方に大きな事故・事件・災害に巻き込まれること無く、このように終業式という節目を迎えることができましたも、皆さんのおかげです。「ありがとうございました。」

「ありがとうは魔法の言葉」という校内の掲示を目にしたことがあると思いますが、私は「ありがとう」という言葉が大好きです。この1秒ほどの短い言葉に、人の優しさを知ることができます。「ありがとう」という言葉は自由に使っていい言葉ですけど、あえて「ある状況」の時に使ってみてください。その状況とは、「何か嫌なことがあった時」です。例えば・・・「友達とけんかしちゃって、イライラする。」そんな時に、「イライラさせて頂き、ありがとう。」って言うみてください。なぜかという、嫌なことが起きると嫌なことだけを考えます。そうすると、また嫌なことが起こってしまいます。不幸なことは重なってしまうのです。しかし、そこで「ありがとう」と言うと、その「不幸の連鎖」が断ち切れます。さらに、良いことが起きるかもしれません。「災い転じて福となす」って言う言葉があるくらいですから。「ありがとう」という言葉を、毎日何回も言うみてください。必ず、心の底から「ありがとう」を・・・。「ありがとう」はどんな不幸と思われる状況も、幸せと感じる状況に変えてくれます。

さて、みなさんは、この4ヶ月、どのように過ごしましたか。自らの変化を感じていますか。

4月の始業式でもお伝えしたように、長商は中間考査の廃止、チーム担任制、生徒面談日の設定等、今年度新しい試み（改革）を行っています。

普段何気ない生活、毎日同じ生活の繰り返しに、人々は安らぎと安堵を覚えます。しかしながら、変化のない生活からは新たな発見や学びは生まれません。私たちにとって、環境を変えることは、慣れからの脱却、少しいやな気持ち・しんどい気持ちにもなるかもしれませんが、君たちが昨年よりもっといきいきワクワクする楽しい元気な学校になるため、そして次のステージでの活躍を期待する意味からも生活に負荷や変化をもたらすことは必要不可欠なものです。中学校からの延長で、これまでと同じ学習環境の繰り返し、変化に対応できない生活環境に陥っていないかを点検する必要があると感じます。

1学期もたくさんの新しい学校行事がありましたが、中でも5月に実施したアンカーワークショップでは幸せな人生を生きるために、好きの芽をどう活かすかが大切、そのために自分の強み・興味、経験、そして考えを探してみようという先輩方のキャリアを通したお話がありました。幸い、明日から

は夏休み、これまでの学校生活とは少し違った生活環境が待っています。この機会に、是非もっと色んな方の話を伺い見聞を広め、なりたい自分について自分軸で主体的に決めてほしいと思います。そして、是非ああいう形で後輩に話してほしいと思います。

この夏休みも改革は続きます。学年ごとに3回の登校日があります。是非、皆さんの笑顔溢れる元気な姿を先生方や身近な友達に見せて安心させてください。1学期の生活を振り返り、2学期に向け更なる活躍を願う意味からも、この夏休みもみなさんの「改革」の時期と考え、過ごしていただきたいと思います。また、40日余りに及ぶ長期の計画をしっかりと立て、2学期からスムーズなスタートが切れることを願っています。体調管理、特に熱中症には十分に備えをして予防し、健康な生活を過ごし、9月の始業式に、全員の笑顔が揃うことを願い、式辞とします。